

青少年 通信

季刊 No.2

発行：横浜市青少年育成センター
横浜市中区住吉町4-42-1 関内ホール地下1階
TEL:045-664-6251 Mail: ikusei@yokohama-youth.jp
FAX:045-664-6254 URL: http://yokohama-youth.jp/ikusei/

青少年育成と 舞台表現



中学校の体育の授業では2012年からダンスが必修となりました。舞台表現の一つであるダンスは、イメージをとらえた表現や踊りを通じた交流を通して仲間とのコミュニケーションを豊かにすることを重視する運動として教育現場に取り入れられています。しかしながら舞台表現は「観るもの」の要素が強く、「やること」として身近に感じにくいのではないのでしょうか。今回は舞台表現を通して青少年育成を行う団体にお話を伺いました。

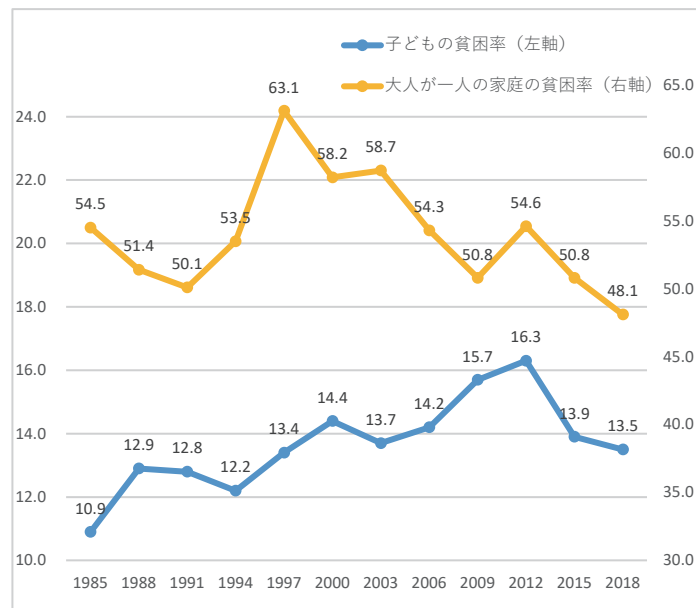
データでみる青少年

子どもの相対的貧困率 7人に1人があてはまる!?



2019年の国民生活基礎調査が公表され、18年時点で「子ども（17歳以下）の相対的貧困率」は13.5%（－0.4ポイント）と発表されました。同様に、「大人1人の家庭の相対的貧困率」も48.1%（－2.7ポイント）と発表され、改善傾向にありますが、依然として、ひとり親家庭などの2世帯に1つが経済的に困窮している実態がうかがえます。経済的な困窮は子どもに学力面・心理面・身体面などへ影響を及ぼします。子ども食堂や学習支援などが受け皿となっていました。新型コロナウイルスの影響でままならない状況です。感染症対策を徹底しながらも、粘り強く活動を継続する必要がありますと感じます。

貧困線：世帯1人当たりの可処分所得分布の中央値の半分の所得水準
相対的貧困率：貧困線に満たない人々が全体に占める割合



厚生労働省 「2019年 国民生活基礎調査」
<<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa19/index.html>>

スタッフ★ブログ 「ロマンティック・ラブ・イデオロギー」 って知ってますか？

「ロマンティック・ラブ・イデオロギー」。意味は、「恋愛と性愛と生殖が結婚を媒介とすることで一体化された概念」とのこと。この言葉を聞いて、自分の幸福観や人生観がいかか意識のうちに形づくられていたかを感じました。既存の価値観を再認識することで、それに囚われない自由な生き方や幸福の追求をして良いんじゃないか、という考えが素敵だと思い、受付アルバイトのBさん(先輩)とCさん(新人)に話したところ、次のような意見交換ができたので、紹介します。(職員Aは私です)

Bさん: 価値観ってどうしても育った環境に強く影響を受ける気がする。自分が経験した社会では規律や模範で「足並みをそろえよう」という意識が全体に強かったと思う。だから、自由で多様な幸福観も、頭では理解できても身近に受け入れるのは難しいかもしれない。

Cさん: 暮らしを良くしたい、技術を発展させたい、という社会は活気がある

けど、その分だけ人も一生懸命で余裕がなくて、置き去りにされる思いや迷いが出てくるのかも。そういう意味では、便利な世の中では人に余裕があって、置き去りにされた思いも省みることができるようになるんじゃないかな。

Bさん: 便利になったことで、今まで困ってても言い出せなかった当事者も、自ら勉強したり情報を得たりすることができるようになったとも感じます。

職員A: そういわれてみれば昨年度には、「息子が成人して久しくなりますが、なかなか社会に出て行けず家にいさせていたけど、最近『この子は“発達障がい”ってことかな』』と思い至ることができました。支援してもらえ取り組みはありませんか？」という相談がありました。

Cさん: そんなふうに入れ先を探せる親ならいいかもしれないけど、無関心や虐待に走ってしまう親もいる。“愛情の格差”とでも言えるような状況があるように思えます。

人の在り様の多様性が広く認められ始めていると感じられることもあります。が、まだまだ十分とは思えません。誰もが生きやすい世の中を目指して、一人一人の理解を深めていくことが大切、という認識を共有しました。

神奈川県立青少年センター ホール運営課



〒220-0044 神奈川県横浜市西区紅葉ヶ丘9-1

『マグカルシアター』「青少年のための芝居塾」は、広く一般から募った青少年と、神奈川県内を拠点に活動する劇団が芝居づくりに挑戦する。演劇が初めてという方も受

県立青少年センターは、若者が演劇・ダンス・パフォーマンスなどの公演を通じて、舞台芸術人材を育てる場として、紅葉ヶ丘ホール・スタジオH・K・A・R・Iなどを活用した、マグカルシアター事業を展開している。

『マグカルシアター』未来のライブパフォーマンスを創造する若い才能の発掘と育成を目指す取り組み。公演会場としてスタジオH・K・A・R・Iを無料で利用できる。ともに、研修室を平日夜の稽古場として利用できる。

『マグカル・パフォーミング・アーツ・アカデミー』神奈川県が舞台芸術の人材を育成するため、劇作家、演出家の横内謙介氏を塾長に迎え、2014年10月に開校した。音楽、ダンス、演技、各分野の一流講師陣による実践的なレッスン、成果発表会、夏のホール公演（ミュージカル）を通して舞台芸術のアーティストを育てる。

『マグカル・ハイスクール演劇フェスタ』神奈川県各地の代表による高等学校演劇発表会で最優秀を得た高校演劇部が上演する。

育成センターのご案内

第1回目はオンラインでのリモート参加も可能!!

子ども・青少年の理解に つながる研修 基礎編

「ウィズコロナ」を見据え、現状を踏まえた、青少年についての新たな知識やノウハウを学ぶ基礎研修

- ①8月31日(月)「学校」(ひきこもり支援現場のイマ)
- ②9月1日(火)「発達」(はじめての心理学)
- ③9月9日(水)「性」(思春期相談の現場から)
- ④9月23日(水)「家庭」(虐待・貧困から護る取り組み)
- ⑤9月28日(月)「依存」(知っておくべき依存症のこと)

対 象 日常的に子ども・青少年にかかわる方
定 員 各回20人(受付先着順)
参加費 第1回(来館、配信ともに) 0円
第2回～第5回 各500円

会議室の貸出

活動内容に応じて大会議室、小会議室を選べます。その他、和室、音楽スタジオなど多目的な活動を支援します。プロジェクトの貸出やフリーwi-fiなど設備も充実しています。

活動相談・情報提供

青少年に関する研修・講座の組み立て方や講師の紹介、地域の青少年活動の事例紹介や青少年関係の統計など活動相談や情報提供を行っています。

「青少年」のことなら、育成センターに

お問い合わせ
TEL: 045-664-6251
Mail: ikusei@yokohama-youth.jp

育成センターのFacebookにご登録ください!
研修・講座等の最新情報が見られます。



気持ちいいものかを考える

青少年センターの舞台事業

青少年センターは1962年に開館して、もうすぐ60周年になります。当初から小中高校との関係は深く、ダンスや演劇の講習会・発表会などを協力しながら行っていて、今も続いています。2003年まではプラネタリウムや触って学べる科学展示場などがあり、子どもたちで賑わっていましたが、耐震工事のため閉じてしまったことに加え、次第に演劇の鑑賞事業も減り、子どもたちが優れた作品に触れる機会が少なくなっていました。

2012年の開館50周年を前に、何とかしようと協力をお願いしたのが劇団扉座の横内謙介さんでした。横内さんは高校時代に演劇発表会に出ていて、いまだにセンターを大事にしてくれています。そして、50周年記念フェスティバルとして、知事と横内さん他の演劇人を招いて、『青少年のための芝居塾』公演や、中学・高校の代表校による演劇上演とシンポジウムを開催することができました。それを機にマグネットカルチャー事業に発展していきます。

青少年センターには、紅葉坂ホール(客席約800人)と小劇場があります。多目的プラザとして貸し出していた小劇場はレッスン等の利用以外稼働率が低く、公演は年に1回あるかないかでした。2013年に『マグカル劇場』と称して、公演する機会や場所のない大学生や青少年に公演場所を提供する事業を開始しました。年間公演は二十数回に増えましたが、出演団体なども次第に固定化していきました。

2019年に「スタジオHAKAR」として劇場仕様に改修してから格段に応募団体が増えていますが、多くて130人が入る劇場ですが、年間公演枠30に対して2倍くらいの応募があります。神奈川には100人程度の小劇場がないため、若手劇団からニーズがあります。

新型コロナウイルスの影響

公演が決まっていた団体は「本当に感染が怖いからやらない」とか、お客さん減らして、マスク配つても、「どうしてもやりたい」と言う団体もいました。青少年センターが完全休館になったのは4月頭からですが、公演の1週間前ぐらいでの中止

◀マグカルシアター公演の様子
↑上は「マグカル・パフォーマンス・アカデミー」のレッスン、下は『青少年のための芝居塾』の稽古の様子



となった団体もありました。中止した団体には来年度の公演枠を優先で与えるようにしましたが、それくらいいいですね。

演劇は基本、集団創作なので、稽古の段階から影響を受けています。公演をしたとしても無観客の公演はなにか違う、ライブ感覚がなくて映像作品のような感じがするし、配信には違法コピーなども心配です。9月に再開する予定ですが、現在のところ感染防止のガイドラインを作成して、新型コロナウイルス感染症の対策を検討しています。実際の運営を思うと本当に考えることが多いですね。

青少年のための芝居塾について

今年中止になりましたけど、毎年4月に高校生から29歳までを対象に一般募集して、県演劇連盟加盟の劇団指導の下、8月の公演に向けて稽古をします。舞台の裏方などを含めて多角的に学ぶ講座です。もともと、高校生のための芝居塾としてスタートした事業でしたが、その後、対象を広げ、今の形になっています。50周年から数年は大きい紅葉坂ホールで公演を行っていました。が、段々と、育成より公演そのものが目的となるなど、本来の趣旨から

いとか、傷ついた時の相談に乗ることもあります。団員には話せないことを聞いたり、辞めることがいいんだろつかと一緒に考えたりします。

表現活動を通じての変化

おとなしい子どもが舞台上に立つた途端変わって、なんでこの子たちが舞台の上でできるんだろって、育つことを感じますね。だけど、演劇のワークショップをすると、演劇部であつてもやる気のない人がいたりします。演劇教育って言われますけど、なにが子どもにとっていいんでしょうね。

自分の子どもを考えると、恥ずかしいが屋なので人前に立つことが恥ずかしいけれど、どこか憧れがありますよね。恋愛の場面を演じるにしても、素のままじゃできない。仮面のようなものを被って、絶対言えなかったセリフが言える。いいかどうかわからないけど、人の口を借りているとわかっていながらも自分の考えが言えるってことはいいのかもしれないですね。

その役の気持ちはわからないけど、考えるじゃないですか。自然と声が出たり、涙が出てきたり、その感情ってなりますよね。演技だけど演技じゃないという気持ちになる。そういう経験って他にはないんじゃないですか。普段声出して本を読むことはないし、学校の本読みでも感情をこめて言つと変な奴って思われ

ずれてきたように思われましたので、現在は、スタジオHAKARで指導しながらやっていく内容に戻しています。

芝居塾とは別に横内さんを塾長にした『マグカル・パフォーマンス・アカデミー』という人材育成事業があります。こちらはオーディションで選んだ参加者が、年間を通じて、歌、ダンス、演技のレッスンを受け、年1回、発表会と公演を行います。アカデミー生のなかにはプロとして活躍している人もいますが、『青少年のための芝居塾』は、経験がなくても、芝居の楽しみを見つける場所です。

どういう関わりをしているのか

ある劇団は「いろんな動物を見て来よう」って動物園に連れて行きました。講座途中の発表会を観ると、みんなが動物になっていて、本公演とは全然関係ない内容でしたけど、観察したもの演じることは面白いな。稽古内容は劇団に任せていますが、声を出して本を読む、活舌、エチュードなどの稽古も多いです。

青少年センターの職員の役割は、何かあった時の子どもたちのフォローと考えています。行き詰ってやめた

てしまふ(笑)。こういう感情なんだねって思ってたつてもうまいかないけれど、気持ちとか感情ってどういふものか考えることが大事なんじゃないかな。

青少年育成と舞台表現

場があれば勝手に育つのかな。私たちはどうしても施設で待ち構える形になるから、場を届けられないのはジレンマですね。皆さんがいいことやろうとしていても、届かないば意味がない。

やりたいことはみんなあつて、その場やチャンスが知らなかったりします。だから演劇なんかは敷居を上げて「なんでも参加していいよ」と言つと視界が開ける、子どもたちのチャンスになります。育成というと難しいですが、やっていなかったことをやってみるだけで、その子にとつてすごい成長の機会になるんじゃないかなと思います。子どもたちが育つきっかけはなんでもいいんですよ。目が覚める、自分の可能性に気付くと言っているのかもしれないですね。可能性じゃなくて「ダメなんだおれは」ってなつてもそれはいいかもしれないけどね。

施設には目的がない人が来ることは少なくなっていますけど、「お芝居って何なの」ってたまたまた子に「じゃあやってみる」ってチャンスをつくれたらいいですね。

マグカルシアター 9月公演

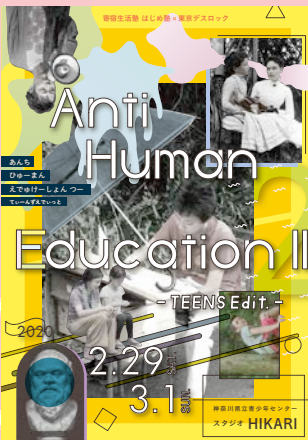
① 9月2日～3日
出演団体:劇団スクランブル
演出:King of Mask
2日(水) 17:00、20:00
3日(木) 12:00、15:00

② 9月23日～25日
出演団体:クリム＝カルム
演出:ロミオとジュリエット＝断々罪
23日(水) 15:00、19:00
24日(木) 13:00、19:00
25日(金) 13:00、17:00

寄宿生活塾 はじめ塾×東京デスロック
『Anti Human Education2～TEENS Edit～』

青少年センターでは、不登校等の課題を抱えた青少年向けにコミュニケーション力や自己肯定力等を高めるためのワークショップ(舞台芸術活用青少年支援事業)を、県内の青少年支援団体(機関)との協働で実施している。

「寄宿生活塾はじめ塾」での演劇ワークショップ(講師:多田淳之介【演出家、東京デスロック主宰】)を平成29年度から3年間実施している。青少年を取り巻く心の課題に対し、舞台芸術の持つ力が課題解決の糸口の1つとなる可能性を提示することを目指す。2020年2月に取組成果を劇場公演として発信する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、中止となった。



演劇資料室

図書約7000冊、雑誌約10000冊、アマチュア・職業団体の公演資料など海外の資料を含め国会図書館にも収蔵されていない貴重書を所蔵する国内有数のコレクション。図書の貸出もしている。

「演劇資料室」に収蔵されている図書・雑誌・資料は、横浜演劇研究所から寄託されたもので、同研究所が創立以来半世紀に亘って収集されてきたものを中心に多くの個人、団体からの寄贈で成り立っている。

最新の戯曲・演劇書なども積極的に整備しており、新しい演劇トレンドに出会える場を目指して。



お話を伺った方

神奈川県立
青少年センター
ホール運営課

池上 裕さん
(2011年から勤務)

